

Broaden your horizons ⑨ ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは! メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。私は先日、アジア・パシフィック会議 (ASPAC) に参加するため、シンガポールに行ってきました。タイで乗り換えて4時間でカンボジア、2時間でシンガポールです。比較的近い両国のあまりの違いに驚きました。カンボジアは今、高度成長期にあり、1年で見違えるほどです。舗装されていない道端で肉を売っている横で、日本のパチンコ屋さんマルハンがマルハン銀行を作っていて、驚きました。一方、シンガポールはすでに先進国で、「できあがった街並み」でした。カンボジアもシンガポールもビルの基礎があまりに華奢で、これで高層ビルの土台? 震度3で倒れるよ? と不安に思いましたが、それは日本人的発想でした。地震のない国なので、細い柱で60階建てが立ち並んでいます。

そんな中、私が一番気になる所はもちろん薬の供給地でした。カンボジアでは根本的に薬が足りません。薬局では冷所保存? それなんですか? 状態で、冷所保存のインスリンが高温多湿の40℃の中に置かれていました。一方、シンガポールには高島屋やセブンイレブンがあり、日本とよく似た形式のドラッグストアが立ち並び、店頭ではサトちゃん人形が出迎えてくれています。シンガポールは医療が非常に進んでおり、同時に医療のPRも進んでいます。Newsweek (アメリカの雑誌) を見ていたときに、シンガポールの病院の広告を見つけました。海外雑誌にも広告を出すんだ……。日本にはこんな発想ないよな~と思ったことを思い出しました。

シンガポールで大卒の人のお給料は月20万円くらいです。カンボジアの大卒の人のお給料は月2万円です。物価が大違いなのです。シンガポールのスターバックスコーヒーの値段は日本とほとんど同じ。カンボジアではスターバックスと思い、立ち寄ったら、但し書きに「当店ではスターバックスのコーヒー豆を使用しています」と……。スターバックスではなかったのね! コーヒー1杯20円くらい。でも、2つの国の共通点は、とにかく活気があることでした。帰国して感じることは、日本はちょっと元気がないですよ。薬学を取り巻く世界もそうかもしれません。今、現場には6年制薬学部の実習生が来始めていると思います。実習生がいない期間が2週間しかないの……という大変な状態も耳にしておりますが、次世代の薬学を背負う若者たちと触れ合い、お互い刺激を与えあい、薬学から元気になっていきましょう!